

看護におけるハンドマッサージの研究の特徴

○上野栄一（福井大学医学部看護学科）・前川伸晃（福井大学学生総合相談室）

キーワード：看護、ハンドマッサージ、テキストマイニング

目的

看護におけるマッサージは、フットマッサージ、ハンドマッサージ、腹部マッサージなどの手技がある。最近では様々なマッサージ技法が導入されてきている。マッサージの効果は、触れるケアであり、山本（2014）は、触れるケアは副交感神経を優位にする作用があることを活用すれば対象者が抱えている苦痛や不安などを緩和および軽減することが可能となると述べている。本研究では、看護におけるハンドマッサージに焦点を当て、その研究の特徴を明らかにすることである。利益相反開示；発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

方法

本研究では、医学中央雑誌で「看護」「ハンドマッサージ」で検索した過去17年間の100の研究についてそのタイトルを分析しハンドマッサージの研究の特徴を、テキストマイニングを用いて明らかにする。使用ソフトKHCoderを用いて、単語頻度解析、共起分析、自己組織化マップを実施した。倫理的配慮として本研究はすでに公開されている文献研究ではあるが、個人名や地名は匿名化して分析をした。

結果

単語頻度解析では1675文字、444の単語に分割された。名詞では、マッサージ85、ハンド77、効果42、患者23、高齢12、ケア11、心理10、女性9、生理9、病棟9、神経7、学生6、技術6、取り組み6、方法6と続いた。サ変名詞では、看護24、検討14、活動11、影響10、変化10、などが続いた。

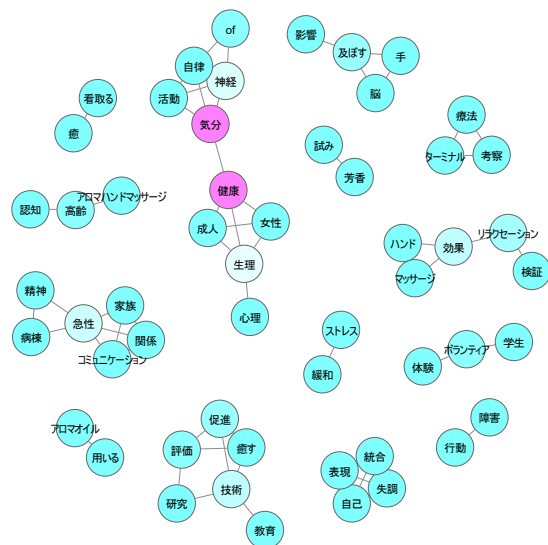


図1 共起分析（ことばネットワーク）

ことばネットワーク(図1)では、[自律、神経、気分、活動]、[女性、生理、心理][家族、コミュニケーション、急性、精神、病棟][技術、評価、促進、癒す][統合、失調、自己、表現][リ

ラクゼーション、効果、検証][ターミナル、療法、考察][芳香、試み、脳、手、及ぼす、影響][高齢、認知、アロマハンドマッサージ][アロオイル、用いる][ボランティア、体験、学生][行動、障害]のクラスターが形成された。

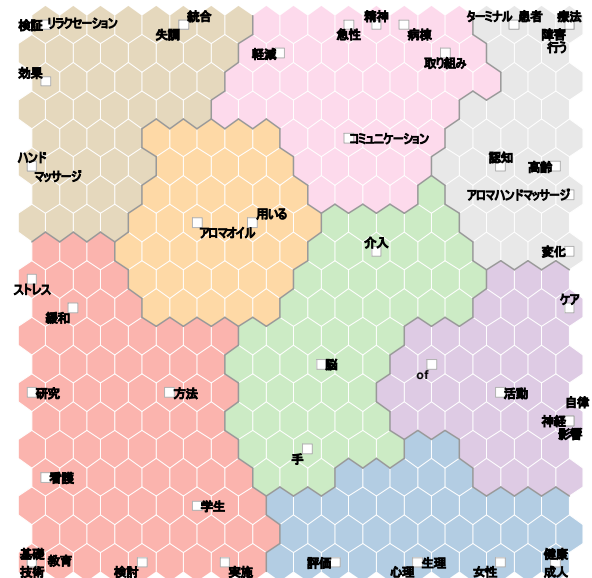


図2 自己組織化マップ

自己組織化マップ(図2)では、【急性、精神、病棟、コミュニケーション】【アロマセラピー】【統合、失調、リラクゼーション、検証】【アロマオイル、用いる】【手、脳、介入】【ストレス、緩和、方法、研究】【女性、生理、心理、評価】【自律、神経、影響】【ターミナル、療法、障害、認知、アロマハンドマッサージ】等のクラスターが形成されていた。

考察

ハンドマッサージに関する研究の特徴として1)対象は患者、高齢者、助成、学生と様々であり、2)疾患としては、精神、統合失調、認知症、急性期、ターミナル期などがあり、3)方法としては、アロマセラピーと併用して使われていること、4)検証内容として、自律神経、コミュニケーション、心理、リラクゼーションなどがあった。これらのことからハンドマッサージが様々な対象に使われその効果検証がなされていた。ハンドマッサージの効果について、主観的リラックス感には有意に高まり、生理的・心理的にリラクゼーションできると報告がある(佐藤、2006)。今後のハンドマッサージのバリエーションの広がりが予想され、患者のQOLの向上に期待できる。文献

山本裕：触れるケアの効果、Effects of Touch Care、千里金蘭大学紀要、11、77-85、2014
 佐藤都也子：健康な成人女性におけるハンドマッサージの自律神経活動および気分への影響、Yamanashi Nursing Journal Vol.4 No.2、2006

(UENO Eiichi, MAEGAWA Nobuaki)